

# 浮世絵等の活用に向けた基本計画

平成30(2018)年7月

川崎市

## 目 次

第1章 基本計画の策定に当たって.....	1
1 基本計画策定の経過.....	1
2 浮世絵コレクション活用の方角性.....	2
3 川崎・砂子の里資料館のこれまでの活動.....	2
4 「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクション.....	3
5 活用コンセプト.....	4
6 活用方針.....	4
第2章 計画予定場所について.....	5
1 計画予定場所の検討.....	5
2 計画予定場所について.....	6
第3章 整備計画について.....	8
1 展示施設の整備目的.....	8
2 施設計画.....	8
3 配置機能及び動線計画.....	8
4 意匠の考え方.....	9
第4章 事業スキームについて.....	10
第5章 展示計画について.....	11
1 展示計画の基本的な考え方.....	11
第6章 運営計画について.....	13
1 特別展示室の事業運営者について.....	13
2 文化財団による事業計画書の提出について.....	13
3 他の施設との連携及び誘客への取組.....	14
4 物販.....	14
5 想定される開館日等.....	14
6 想定される人員体制.....	15
第7章 事業費について.....	16
1 整備事業費について.....	16
2 運営事業費について.....	16
3 入館料について.....	17
4 想定収入.....	19
5 川崎市ふるさと応援寄附金について.....	19
6 運営事業費の収支予測.....	19
第8章 今後のスケジュール.....	20

# 第1章 基本計画の策定に当たって

## 1 基本計画策定の経過

平成28年9月17日に休館（現在、展示施設としては事実上閉館）した「川崎・砂子の里資料館」は、平成13年の開館から東海道川崎宿沿いで約15年間にわたり歌川広重や葛飾北斎など、「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」が所有する浮世絵作品等を展示してきました。

そして、平成29年8月、川崎市内で浮世絵の展示を行ってきた「公益社団法人川崎・砂子の里資料館（以下「社団法人」といいます。）」から川崎市に対し、同法人所有の浮世絵コレクションを有効活用し、日本文化の世界への発信や文化芸術の振興、地域の魅力向上に資する効果的な方策の検討を依頼する申し出を受けました。

申し出を受け、浮世絵コレクションの有効活用の検討を行う前に、①日本文化の世界への発信、②文化芸術振興、③地域の魅力向上という方向性が本市政策に合致しているかについて確認を行いました。

「川崎市総合計画」では、「東京オリンピック・パラリンピックや市制100周年を契機として、スポーツ・文化芸術活動を通じて市民が感動を分かち合うとともに、こうした活動をさらに促進することで、自ら暮らすまちに抱く愛着と誇りを次世代に継承していく」こと、「海外にも通用する抜群の都市ブランドを確立し、市民が愛着と誇りを持ち、誰もが訪れたいくなる川崎をめざすため、地域資源を磨き上げるだけでなく、新たな地域資源の発掘・創出に取り組む」ことが掲げられています。

また、「川崎市文化芸術振興計画」では、「音楽や映像、歴史や伝統文化など、地域資源を活かしたまちづくりを推進するとともに、これらの魅力を積極的に国内外に向けて発信し、市民の地域への愛情を増進するとともに都市イメージのさらなる向上」を図ること、「魅力的な川崎の文化芸術を育てるとともに、国内外に向けて発信することにより、都市イメージの向上や観光客の誘致」を図ることが示されています。

本市政策を推進する上で、地域の歴史・文化資源として、社団法人所有の浮世絵コレクションの有効活用を検討すべきと考えたことから、調査を実施した結果、文化芸術の振興はもちろん、観光振興や都市計画、川崎駅周辺地区に関する計画など、関連する市の政策を推進する上で、コレクションを地域の歴史文化資源として有効活用できる可能性が高いと判断しました。

これにより、効果的な活用方策や展示方法、適切な展示環境など、必要な条件について調査・検討を行い、平成30年4月に「浮世絵等の活用に向けた基本方針（案）」を取りまとめ、パブリックコメント手続を経た上で、同年6月に「基本方針」を策定しました。

この「基本計画」は、基本方針の内容に基づき策定したもので、今後はこの基本計画を踏まえた取組を進めてまいります。

## 2 浮世絵コレクション活用の方向性

浮世絵は、描かれているテーマとして江戸時代の暮らし、風俗、流行などが反映され、単なる絵画にとどまらず、日本の歴史的な伝統文化を伝える貴重な作品であり、また近年は海外からの評価も高く、国内外を問わず、高い集客力を有する特性があります。

この特性を効果的に活かす立地として、旧東海道、川崎大師といった浮世絵との親和性が高いエリアであり、多くの商業施設、文化・交流施設、行政機能などが集積し、東京2020大会を契機とした国内外からの誘客や、回遊性の向上、にぎわいの創出などが期待できることから、川崎駅周辺で活用します。

### 活 用 の 方 向 性

○浮世絵コレクションの特性から見た活用の方向性

良質な文化芸術作品の  
鑑賞機会の提供

浮世絵の背景にある文化を  
体験などを通じて発信

浮世絵の活用を通じた  
まちへの愛着と誇りの醸成

浮世絵を活用した  
新たなにぎわいの創出

○川崎駅周辺地区の動向から見た活用の方向性

川崎駅周辺地区の立地優位性  
を活かした文化芸術の発信

更なる回遊性を図るための  
戦略的な誘引

鑑賞及び文化芸術体験  
の提供による文化的魅力の向上

観光交流機能の国際化と  
広域的なにぎわいの創出

## 3 川崎・砂子の里資料館のこれまでの活動

- ・東海道川崎宿沿いで約15年間にわたり歌川広重、葛飾北斎らの浮世絵を中心に展示
- ・社団法人が所有するコレクションを中心とした企画展を毎月開催し、市民をはじめ多くの来館者が触れることができた。
- ・カラー刷りの作品レポートも毎回無料で配布するなど、文化啓発を積極的に行ってきた。
- ・休館後の浮世絵コレクションは、他館への貸出しにより平塚や狛江、ローマなど国内外で展示されている。



川崎・砂子の里資料館外観

#### 4 「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクション

##### (1) 希少な作品を含む豊富なコレクション

- ・ 社団法人のコレクションは、わが国を代表する浮世絵一括収集のひとつ。所蔵数は約 3,000 点
- ・ 希少性の高い浮世絵肉筆画（原画）も約 100 点と充実
- ・ 「東海道五十三次」や「富嶽三十六景」などの続き物を全作品揃えるなど高い希少性

##### (2) 川崎の郷土と浮世絵

- ・ 川崎や神奈川にゆかりのある作品を起点に収集された高い郷土性
- ・ 川崎に関する浮世絵から東海道の名所や横浜絵、東京の作品を中心に収集範囲が拡大
- ・ 川崎の浮世絵の題材として、多摩川六郷の渡しや、川崎大師など

##### (3) 歴史体系に沿ったコレクション

- ・ 収集当初は、川崎や神奈川に特化した作品を収集、後に歴史を追った系統的収集へ変化
- ・ 特定の絵師やジャンル、時代に偏らない浮世絵の包括的なコレクション
- ・ 浮世絵の誕生から 300 年以上にわたる浮世絵の歴史を、総合的に幅広く体感できるのが特徴



葛飾北斎  
「富嶽三十六景 凱風快晴」



葛飾北斎  
「富嶽三十六景 山下白雨」



柳々居辰斎  
「六郷渡」



初代歌川広重  
「東海道五拾三次之内 箱根 湖水図」

##### (4) 国内外での評価・集客性

- ・ コレクションは有名作品を中心に国内外からの多くの依頼により、他館への貸出を行っている。
- ・ 海外（アメリカ、フランス、イタリア等）でも、高い集客性を発揮

【例】

平成 25(2013)年：三菱1号館美術館（69 日間で約 66,000 人の集客）  
平成 17(2005)年：ワシントンDC 「UKIYO-E」展

## 5 活用コンセプト

# “歴史×文化×芸術”による新しいエリアの創造

浮世絵という世界に誇る川崎ならではの  
“歴史×文化×芸術”資源を活用し、様々な地域・世代をつなぐ  
新たなにぎわい創出プロジェクト

## 6 活用方針

### (1)川崎の“歴史×文化×芸術”資源の活用

東海道川崎宿という、川崎区を代表する歴史と文化の「道」において、長年にわたり川崎・砂子の里資料館にて親しまれてきた「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクションは、川崎を語る上で大切な地域の歴史文化資源のひとつであり、鑑賞だけではなく、体験・体感といった有効活用を通じて、東海道や川崎大師地区などの周辺地域へと歴史文化の軸をつなげていきます。

### (2)浮世絵を通じた川崎の歴史・文化の継承

芸術的価値だけではなく、東海道に始まる街道筋の暮らしや文化を視覚的に伝える資料としても価値があり、浮世絵の活用を通じて、川崎の歴史・文化や、その背景にある日本の産業文化を、しっかりと後世に伝えることで、市民の地域への愛着と誇りを醸成します。

### (3)他施設との連携による日本文化の魅力発信

「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクションだけでなく、市民ミュージアムをはじめとする他の施設との連携を通じて、川崎から浮世絵の魅力と日本文化の魅力を国内外に発信し、文化都市としての魅力の向上を図ります。

### (4)「川崎ならではの」の価値によるにぎわいの創出

商業、サービス、文化・交流、行政機能が集積し、多くの利用者によって市のにぎわいの中心となっていることに加え、羽田空港に近いという立地優位性がある川崎駅周辺地区で、国際的に知名度の高い「浮世絵」を活用することで、歴史と文化と芸術とを融合させた「川崎ならではの」の価値を生み出し、市民、国内旅行者に加え、東京2020大会に向けて増える訪日外国人旅行者も誘客し、新たなにぎわいを創出します。

## 第2章 計画予定場所について

### 1 計画予定場所の検討

「基本方針」において整理した浮世絵等の展示に向けた活用の視点を踏まえ、候補とするエリアを「川崎駅周辺」とし、本市が所有する既存施設を活用します。

#### 川崎駅周辺地区の動向を踏まえた方向性

##### 川崎駅周辺地区の立地優位性を活かした文化芸術の発信

商業・サービス業、文化・交流など様々な機能が集積したにぎわいの中心であり、国内外からの立地優位性も高い川崎駅周辺地区から、川崎の文化芸術を積極的に発信し、国際的な文化都市としての認知度の向上を図る。

##### 更なる回遊性を図るための戦略的な誘引

今後の増加が見込まれる来訪者に対し、何度も気軽に立ち寄ることができるよう、常に新たな文化・芸術体験・サービスを提供するなど、駅周辺へ戦略的に誘引することで、更なる回遊性の向上を図る。

##### 鑑賞及び文化芸術体験の提供による文化的魅力の向上

川崎駅周辺地区に、芸術作品の常設的な鑑賞機会を創出するとともに、体験などの新たなサービスを提供していくことで、市民の文化体験を通じた地域への愛着の醸成や文化・観光施設の充実による魅力向上につなげる。

##### 観光交流機能の国際化と広域的なにぎわいの創出

東京 2020 大会を見据え、訪日外国人に向けた地域の魅力や「和」の文化発信など、羽田からの玄関口である川崎駅周辺地区の国際的な観光拠点化を推進し、広域的なにぎわいを創出する。

#### 川崎駅周辺地区の現況図



## 2 計画予定場所について

川崎駅前タワー・リパーク3階のアートガーデンかわさき（以下「アートガーデン」といいます。）の一部である公益財団法人川崎市文化財団（以下「文化財団」といいます。）事務室跡スペースと、旧東海道沿いに立地する「東海道かわさき宿交流館3階展示室」を比較した結果、常設展示スペースが適切に確保でき、誘客効果が高い「文化財団事務室跡スペース」を計画予定場所とします。

### 【計画予定場所の比較】

活用の視点	川崎駅前タワー・リパーク3階 文化財団事務室跡スペース 普通財産	適 否	東海道かわさき宿交流館 3階展示室 行政財産／公の施設（指定管理）	適 否
①展示規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>・150㎡のうち展示可能なスペースは100㎡程度</li> <li>・壁かけ55枚～60枚に加え、覗きケースやハイケースでの作品展示スペースを確保することができる。</li> <li>・4～5週間の頻度で展示替えを要する浮世絵作品の特性に合った規模であり、常設ギャラリーとして展開可能。</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示可能なスペースは50㎡程度</li> <li>・パネルで仕切れば壁かけて55枚の展示は不可能ではないものの、鑑賞者の十分な動線やケース展示のスペースは確保できず常設ギャラリーには適さない。</li> </ul>	△
②事業展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品展示以外の「体験、体感」といった事業スペースが不足しているが、展示スペース内のレイアウト変更やアートガーデンの第1～3展示室を活用すれば、一時的な事業展開は可能。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設ギャラリー化した場合には従来行っている館の企画事業ができなくなるため、既存の指定管理業務の整理が必要</li> <li>・3階展示室と併せて4階会議室を活用すれば、「体験、体感」などの一時的な事業展開は可能</li> </ul>	△
③立地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR川崎駅北口直結による利便性</li> <li>・観光案内所（かわさききたテラス）との連携による誘客</li> <li>・旧東海道への新たなアプローチ確立</li> <li>・アートガーデンの利用団体・来場者の誘客効果</li> <li>・東海道かわさき宿交流館との回遊性への期待</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浮世絵と親和性の高い旧東海道沿いにて事業展開することができる一方で、駅周辺のにぎわいの中心からは離れた立地となる。</li> </ul>	○
④ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通の要所に至近であり、駅利用者、観光客、羽田空港を利用する訪日外国人をターゲットにすることが可能</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅からのアクセスを考慮すると、観光客や訪日外国人をターゲットにするには工夫が必要</li> </ul>	○
⑤活用開始の時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最短で平成31年中に活用開始</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有料での常設展示の実施には設置条例の改正や指定管理者との調整が必要となるため、現指定期間終了後の平成35年度が基本</li> </ul>	×
参考 (想定される初期投資経費等)	全体で150㎡あるアートガーデンに比べ、展示可能スペース50㎡のみの東海道かわさき宿交流館における設備改修、展示制作の整備については安価となることが想定される。			

### 〔計画予定場所 概要〕

名称 : (仮称) アートガーデン特別展示室  
 所在地 : 川崎市川崎区駅前本町12-1 川崎駅前タワー・リパーク3階  
 整備面積 : 約150㎡  
 用途地域 : 商業地域







#### 4 意匠の考え方

- ・ 浮世絵と親和性の高い「和」の空間を創出
- ・ 特別展示室への誘因効果や来館者によるSNS発信を意識した廊下壁面等を演出

浮世絵との親和性の高い和の空間イメージ



SNS などによる発信を意識した空間イメージ



(東海道かわさき宿交流館のフォトスポット)

## 第4章 事業スキームについて

川崎市と社団法人との間で平成30年4月に締結した「基本合意」に基づき、概ね20年間にわたり、展示に必要な浮世絵等の作品を社団法人から川崎市が無償で借用し、川崎市が整備する展示環境において、事業運営者が展示を行います。（巻末資料編P24：「基本合意」）

計画予定場所である「文化財団事務室跡スペース」を含め、川崎駅前タワー・リパーク内にあるアートガーデンについても文化財団に対し、普通財産の貸付としてきました。

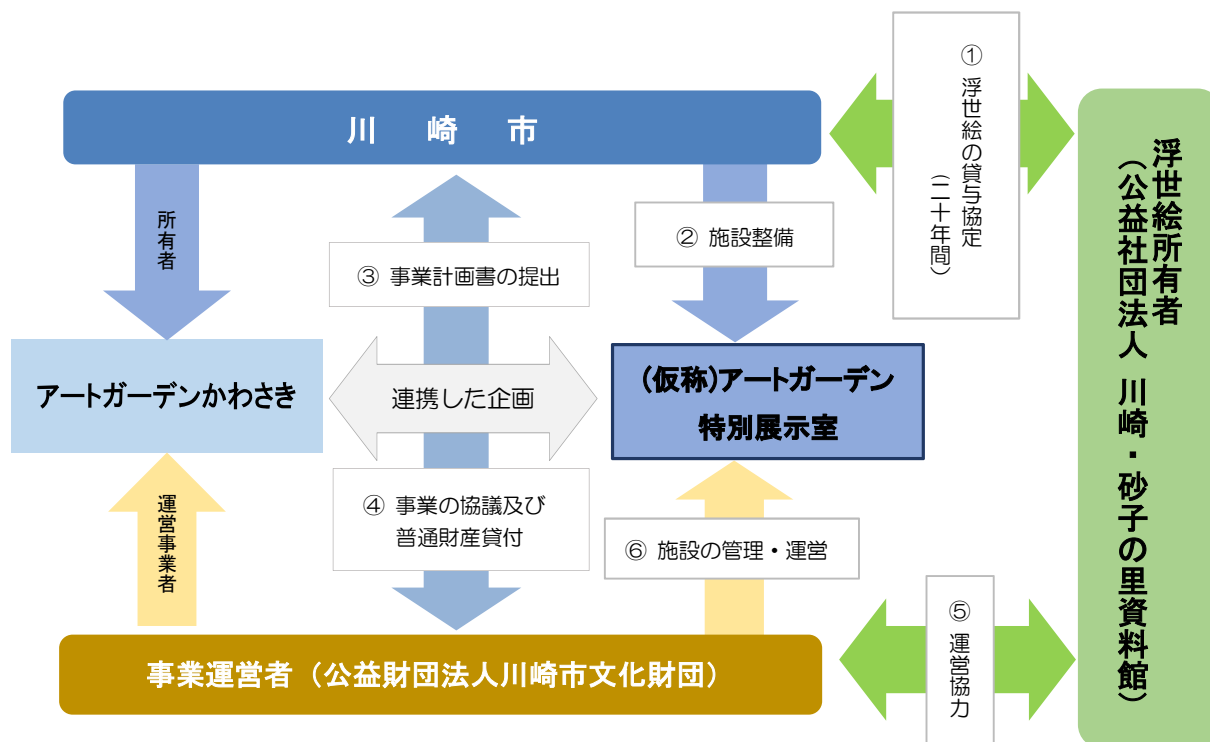
これは、文化財団が自主的に独自の企画展の開催、文化活動を支える市民の方々の交流、創作活動の発表における拠点としての有料貸出等ができるようにするとともに、市の文化行政の一翼を担うことを目的に設立された文化財団に対し、文化振興に資する環境づくりを行うことは財産活用の見地からも妥当と判断したためです。

このたび計画予定場所とした文化財団事務室跡スペースについては、これまでと同様の運用が適当であることから、引き続き普通財産の貸付によるものとします。

事業運営者についても、アートガーデンを安定的・効果的に運営してきた文化財団による一体的な管理を通じ、フロア全体の効率的かつ効果的な運営が期待できることに加え、更なる文化振興機能の強化を推進することができることから、「文化財団」が事業運営者となるものとします。

なお、市と文化財団及び社団法人との間においては、それぞれの役割分担等の明確化を目的とする協定の締結を想定しています。

### 事業スキームのイメージ図



## 第5章 展示計画について

### 1 展示計画の基本的な考え方

浮世絵の特性に配慮しながら、コレクションを最大限に活用した展示等を行います。

具体的な展示計画については、事業運営者となる文化財団において、東海道五十三次などのシリーズものや川崎との深い関係性を持つなどのコレクションの特徴や、これまでの展示実績を踏まえた展示計画を策定し、国内外から注目を集める企画を継続的に実施していきます。

- (1) 4～5週間を1つのサイクルとして、運営を担う文化財団が企画のテーマを定め、社団法人から55～60点程度をその都度借用し、展示を行います。
- (2) 展示内容については、特定のジャンルや時代に偏らない幅広い作品群の特性を活かし、東海道五十三次など世界的にも著名な作品に加え、郷土性に満ちた川崎にゆかりのある作品を展示し、歴史や背景などを学べるような企画などを実施します。
- (3) 同一フロアにあるアートガーデンの展示室を活用し、身近な市民の方々に加え、国内外からの来訪者にも喜ばれる「体験・体感」イベント等を検討し、多くの方々に楽しんでいただく企画を実施します。

### 浮世絵コレクションを活用した展示の主な実績

開催名称	開催場所／期間	展示テーマ	主な展示作品	入館者数・入館料
浮世絵 珠玉の斎藤コレクション Floating World	三菱一号館美術館 平成25年 6月22日～9月8日 (69日間)	コレクションの特質として、特定のジャンル、時代に偏らず、浮世絵の歴史を幅広くうかがうことができる点にあり、その全体を見渡すために3会期に分けて展示	鈴木春信《風流やつし七小町シリーズ》 鳥居清長《女湯》	65,985人 956人/日  1,300円
斎藤文夫コレクション 浮世絵・神奈川名所めぐり	平塚市美術館 平成29年 4月15日～6月11日 (50日間)	神奈川県内の名所・東海道の宿場を題材とした浮世絵優品200点を紹介し、郷土の魅力を再確認	歌川国芳《相州大山道田村渡の景》 歌川広重《東海道五拾三次之内 平塚 縄手道》 鳥居清長《江之嶋》	24,543人 490人/日  400円
藤澤浮世絵館開館1周年記念 江の島と名品浮世絵展	藤沢市藤澤浮世絵館 平成29年 9月13日～10月22日 (20日間)	開館1周年を記念し、江の島の浮世絵を中心に、有名絵師の希少な優品や、浮世絵の歴史を物語る有名作品を展示	歌川広重《隸書東海道》 鳥居清長《江之嶋の渡し》 喜多川歌麿《江の島》	4,231人 211人/日  無料
斎藤文夫コレクション 浮世絵にみる多摩川と武蔵国の記憶	狛江市泉の森会館 平成29年 10月13日～10月25日 (13日間)	狛江を流れる多摩川にちなんだ浮世絵と、その流れをくむ近代のわが国を代表する絵師たちによる版画32点の「多摩川づくし」	葛飾北斎《富嶽三十六景 武州玉川》 歌川広重《今様六玉川の内 武蔵調布》	2,500人 192人/日  無料
HOKUSAI. Sulle orme del Maestro	アラパチス博物館/ローマ 平成29年 10月12日 ～30年1月14日	葛飾北斎らの作品を集めた展覧会「HOKUSAI」を開催。江戸時代に大人気だったとされる「北斎漫画」も展示	葛飾北斎《富嶽三十六景》	—

## 浮世絵コレクションを活かした取組

### 企画展ごとの浮世絵の展示



藤沢市藤澤浮世絵館

特定のジャンルや、時代が偏らない  
幅広い作品群の特性を活かした魅力ある展示

### 郷土性に満ちた川崎ゆかりの作品の展示



歌川広重・東海道五拾三次之内川崎（川崎・砂子の里資料館 資料提供）

川崎にゆかりのある東海道五拾三次など  
郷土性のある作品を展示することで、  
歴史や背景を学べる企画を実施

### 国内外からの来訪者の誘客



JR 川崎駅北口に直結し、  
京急川崎駅とも至近にあるという立地優位性を最大限に活かした誘客効果を期待

### 来訪者に喜ばれる「体験・体感」イベント



浮世絵のすり体験などの企画イベントを、  
アートガーデンかわさきを活用して開催

## 第6章 運営計画について

### 1 特別展示室の事業運営者について

特別展示室はこれまでアートガーデンの運営を担ってきた文化財団が一体的な管理を行うことで、フロア全体について効率的かつ効果的な運営が期待できます。

また、駅から直結という立地特性を最大限活かし、高い事業採算性を目指します。

### 2 文化財団による事業計画書の提出について

浮世絵コレクションの有効活用により、作品との親和性のある東海道等を中心とした、川崎の歴史・文化にまつわる魅力の発信、川崎ならではの価値を發揮するにぎわいの創出など、川崎の魅力向上に資するとともに、効率的な運営等を通じた高い採算性を確保できるよう、本市と協議の上、事業運営に関する「事業計画書」を文化財団が作成し、より良い運営を目指します。

事業計画書については浮世絵の特性を活かした効果的な企画の実施や効率的な施設運営につなげるため、次の事項を求めることを想定しています。

運営方針	開館日や時間、入館料など、施設運営の基本となる効果的・効率的な運営方法の考え方
人員配置計画	展示担当員をはじめとする効率的、効果的な人員配置の考え方
展示・事業企画	浮世絵コレクションの活用による企画展示の考え方 展示以外の事業の考え方
連携企画	他の施設等との連携による回遊性等の向上に向けた取組の考え方
広報計画	来館者の確保、施設の魅力発信に向けた広報の考え方、近隣商業施設等との連携
効率的な収支計画	特別展示室の管理運営に必要な歳入・歳出計画
歳入確保策	効果的な誘客につながるセット料金を含む入館料の設定 グッズや図録作成販売、年間パスポートの発行などのリピーター確保対策 ふるさと応援寄附金などの歳入確保に向けた考え方
作品の保護対策	浮世絵作品の運搬時及び展示の際における作品保護の考え方

### 3 他の施設との連携及び誘客への取組

浮世絵との親和性が高い旧東海道を中心に、川崎の歴史・文化にまつわる魅力を発信する施設である「東海道かわさき宿交流館」、浮世絵や川崎市の郷土、歴史に関する作品などの文化財を収蔵する「市民ミュージアム」と連携した取組の検討を行います。

また、1つ上のフロアにある「市立川崎図書館」との連携も検討を行います。

#### 【想定される事例】

- ・ 特別展示室に展示する作品に関連する企画を「東海道かわさき宿交流館」において実施することで、相互の施設への来館を誘導します。
- ・ 市民ミュージアムにおいて同館が所蔵する浮世絵や川崎の歴史にまつわる作品や文化財を展示したり、特別展示室での企画展との関連性のある文化財等を借用して展示するなどの企画や相互の広報を行うなど、多様な連携が期待できます。
- ・ 川崎図書館で浮世絵に関する図書の展示企画（平常時の関連図書の紹介も可能）

### 4 物販

浮世絵グッズはもちろん、東海道かわさき宿交流館との関連性を活かした品物など特別展示室を彩るオリジナルグッズ等を販売し、魅力あふれる物販コーナーを運営します。

また、企画展に関する図録を販売することも想定します。

【想定されるグッズ】 クリアファイル、手ぬぐい、メモ帳、ガチャガチャ など

### 5 想定される開館日等

開館日や開館時間については、他の類似施設を基本としつつ、駅直結という利便性を踏まえ、午後7時までの開館を想定します。

(1) 開館日：月曜日及び年末年始を除く毎日。（展示替えの際は一定期間の臨時休業あり）

(2) 開館時間：午前10時から午後7時まで（曜日ごとに異なる時間設定も想定）

#### 【展示スケジュールイメージ（概ね4週間展示後に展示替え）】

日	月(休館日)	火	水	木	金	土
前の企画展	休	展示替 休	展示替 休	展示替 休	展示替 休	1
2	休	3	4	5	6	7
8	休	9	10	11	12	13
14	休	15	16	17	18	19
20	休	21	22	23	24	25
26	休	展示替 休	展示替 休	展示替 休	展示替 休	次の企画展



## 6 想定される人員体制

浮世絵作品の展示を行うための専門職員の配置はもちろん、効率的な管理運営を図るため、特別展示室とアートガーデンの一体的な管理運営に対応する体制を構築します。

具体的な体制は、文化財団の事業計画書によるものとします。

役割	想定する主な業務
展示担当員	展示の企画、作品貸与の調整、図録執筆、事業企画、事務処理
受付・販売員	入館券販売、グッズ販売、(アートガーデン展示室受付)
作品監視員	展示室における貴重な作品の安全管理

## 第7章 事業費について

本事業は、市が整備した特別展示室を文化財団が管理運営するスキームであることから、初期経費については市が負担します。

運営事業費（ランニングコスト）については、市から計画予定場所を貸借する賃借料相当分の補助金を除き、入館料及びグッズなどの物販収入を充てることを原則とします。ただし、展示環境の修繕に係る費用については市が負担します。

### 1 整備事業費について

整備事業費については、空調、照明等の設備改修に要する費用、浮世絵の展示に必要となる展示制作等に要する想定経費は、次のとおりとします。

#### ■ 想定整備事業費 (税込)

費目		概要	金額
施設改修	空調設備	機器設備、空調及び換気ダクト設備改修等	1,050万円
	消火設備	配管設備、電気設備等	500万円
	その他改修経費	解体工事、建具、電気配線、自動ドア等	3,900万円
展示制作等	展示照明設備	LED照明等	4,050万円
	展示制作費	展示ケース、可動壁設置等	
	備品購入費	展示室内備品等	500万円
合計			1億円

### 2 運営事業費について

運営事業費については、想定経費として次のとおりとします。

#### ■ 想定運営事業費 (税込)

費目		概要	金額
人件費	展示担当員、受付・販売員	給与、社会保険料、各種手当、アルバイト賃金、業務委託料等	1,400万円
事業経費	事業費	広報、グッズ・図録製作、作品運搬、保険等	740万円
	施設費	光熱水費、施設保守点検、清掃業務等	170万円
合計			2,310万円

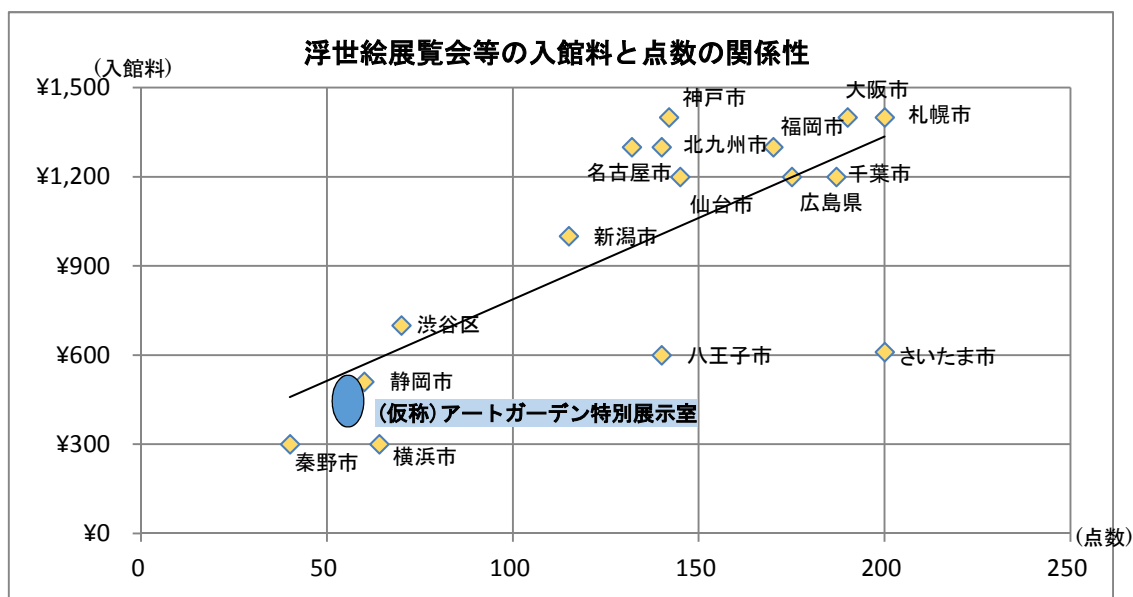
### 3 入館料について

#### (1) 他館等での状況

他の美術館における浮世絵の企画展実施における入館料は次のとおりです。なお、入館料の設定は概ね展示点数との相関もありますので、それぞれ検討の参考とします。

#### ■他館の状況

美術館名	所在地	点数	料金／点数	入館料(円)
秦野市立宮永岳彦記念美術館	秦野市	40	8	300
静岡市東海道広重美術館	静岡市	60	9	510
横浜市歴史博物館	横浜市	64	5	300
太田記念美術館	渋谷区	70	10	700
新潟市美術館	新潟市	115	9	1,000
名古屋市博物館	名古屋市	132	10	1,300
北九州市立美術館	北九州市	140	9	1,300
八王子市夢美術館	八王子市	140	4	600
神戸市立博物館	神戸市	142	10	1,400
仙台市博物館	仙台市	145	8	1,200
福岡市博物館	福岡市	170	8	1,300
広島県立美術館	広島県	175	7	1,200
千葉市美術館	千葉市	187	6	1,200
大阪市立美術館	大阪市	190	7	1,400
札幌芸術の森美術館	札幌市	200	7	1,400
うらわ美術館	さいたま市	200	3	610



## (2) 入館料の考え方

特別展示室の運営事業費（ランニングコスト）については、先述のとおり原則入館料等の収入により賄えるようにしたいと考えており、受益者による応分の負担をいただくとの考え方から、適切な入館料を設定します。

具体的な入館料は、文化財団の事業計画書によるものとしますが、上記（1）のグラフのとおり、55～60点程度を展示する本展示室においては、300円～500円程度が相当と見ることができます。

## (3) 目標入館者数

展示規模の類似性の観点から藤沢市藤澤浮世絵館の年間4万人が参考となりますが、本コレクションの他館での展示実績や駅からの利便性、より首都圏に近いという立地優位性などから、入館料の有無の違いはあるものの、藤澤浮世絵館を超えることは可能であると予想されます。

また、渋谷区原宿にある太田記念美術館も展示規模が類似しており、入館料を700円（企画展・大人）、1,000円（特別展・大人）としながら、年間8万人を集客している点も、参考となると考えています。

こうした類似施設の実績を参考に、東京2020大会を背景としたインバウンド効果が見込まれるとともに、アートガーデンかわさきの年間4万人を超える入館者の回遊性も期待できることから、大人の有料入館者について、年間6万人を目標とした集客計画を検討します。

施設名	アクセス（括弧内は乗降者数※）	（一般）入館料 （子ども）〃	入館者数/年
藤澤浮世絵館 （テナントビル単独フロア）	J R辻堂駅 徒歩5分 （112,268人）	無料	開館後1年で 約40,000人
太田記念美術館 （単独施設）	J R原宿駅 徒歩5分 （141,732人） 東京メトロ 明治神宮前駅 徒歩5分（105,537人）	（一般） 企画展 700円 特別展 1,000円 （中学生以下）無料	83,780人 （中学生以下：2,587人）
（仮）アートガーデン 特別展示室 （美術ギャラリー併設）	J R川崎駅 徒歩1分 （394,020人） 京急川崎駅 徒歩3分 （118,034人）	（一般） 300円～500円程度 〔想定〕 （小学生以下）無料 〔想定〕	60,000人 （一般入館者数目標）

※出展：「国土数値情報 駅別乗降客数データ」（数値は平成27年度分）

#### 4 想定収入

項目	料金の考え方等	考え方の根拠等
入館料	大人 300 円～500 円程度	子供、障害者等の料金設定も想定
グッズ販売	売上見込 入館者の購入割合概ね 10%×客 単価概ね 500 円程度を想定	『全国の科学系博物館におけるミュージアムショップアンケート調査結果』を活用して本市が想定
図録販売	売上見込 入館者の購入割合概ね 5%×客 単価概ね 1,000 円～2,000 円	他館からの聞き取りを参考に本市が想定

#### 5 川崎市ふるさと応援寄附金について

文化は地域で支えることで、より一層市民のためのものになると考え、市民がこの事業を応援することができるよう「川崎市ふるさと応援寄附金」のメニューに追加し、このメニューに対していただいた寄附は、本事業の拡充、サービス向上を目的として活用させていただきます。

そのため文化財団においては、入館者の確保はもちろん、川崎市ふるさと応援寄附金への寄附につながる広報等の取組が望まれます。

#### 6 運営事業費の収支シミュレーション

上記2から5を踏まえた本事業の収支シミュレーションは次のとおりとなります。

[入館者 6 万人、入館料を大人 300 円、図録を 1,000 円と仮定した場合の想定収益]

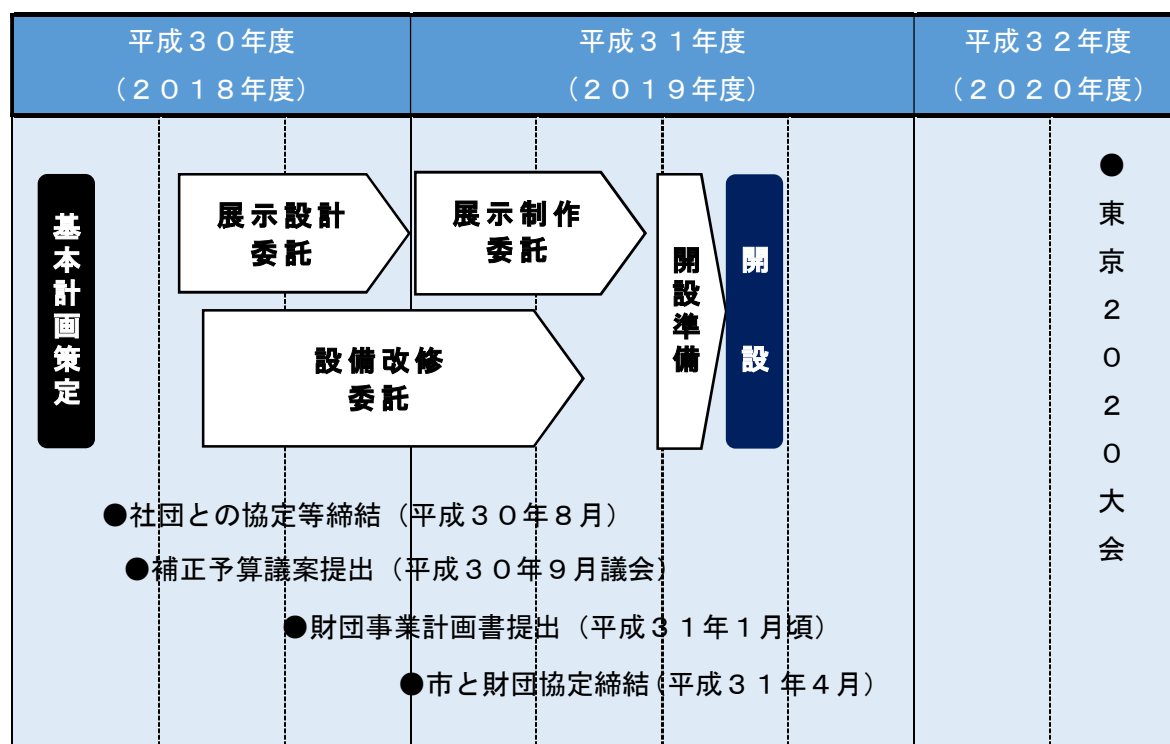
入館者数	入館料	グッズ売上	図録売上	合計
6 万人	1,800 万円	300 万円	300 万円	2,400 万円

よって、6 万人の有料入館者数により、想定される運営事業費（約 2,310 万円）を賄うことが可能となると想定します。

これらの収入に加え、前述のふるさと応援寄附金により、事業の拡充やサービス向上を図り、入館者の満足度向上や入館者数の増加につなげていきます。

## 第8章 今後のスケジュール

基本計画策定後、必要な予算を確保した上で整備に着手し、設備改修や展示制作を進めるとともに、事業運営者となる文化財団と連携して、施設の管理や運営に必要な調整を行い、平成31年中の開設に向けて準備を進めます。



## 資料編

浮世絵展示に関する類似事例

施設名	所在地	開館年	設立主体	運営主体	延床面積
太田記念美術館	東京都渋谷区	昭和 55 年	公益財団法人 太田記念美術館	直営	—
茂木本家美術館	千葉県野田市	平成 18 年	公益財団法人 茂木本家美術館	直営	—
信州小布施北斎館	長野県小布施町	平成 27 年 (RN時)	一般財団法人 北斎館	直営	1,390 m <sup>2</sup>
すみだ北斎美術館	東京都墨田区	平成 28 年	墨田区	指定管理 (墨田区文化振 興財団・丹青社 共同企業体)	3,279 m <sup>2</sup>
藤澤浮世絵館	神奈川県藤沢市	平成 28 年	藤沢市	直営	845.3 m <sup>2</sup>
日本浮世絵博物館	長野県松本市	昭和 57 年	一般財団法人 日本浮世絵博物館	直営	891 m <sup>2</sup>
江戸東京博物館	東京都墨田区	平成 27 年 (RN時)	東京都	指定管理 (公益財団法人 東京都歴史文化 財団)	48,000 m <sup>2</sup>



施設概要	体験	入館料			来館者数/ 年	最寄駅からのアクセス
		大人	高校生	中学生以下		
太田記念美術館は、かつて東邦生命相互保険会社の社長を務めていた五代太田清蔵(1893～1977)が蒐集した浮世絵コレクションを、広く大勢の方々に公開するために設立された美術館である。	なし (講座、企画展 映像上映のみ)	企画展 700 円 特別展 1000 円	企画展 500 円 特別展 700 円	無料	83,780	JR原宿駅 徒歩 5 分
近世から現代まで、日本の美術を幅広く蒐集。茂木本家美術館では、名誉館長である茂木七左衛門が長年蒐集してきた美術品を展示。	なし	700 円	700 円	400 円	非公表	東武アーバン パークライン 野田市駅 徒歩 8 分
葛飾北斎という人間、浮世絵師、葛飾北斎の美術館。ここは小布施で描かれた肉筆画、画稿、書簡などを展示し、また映像シアターやデジタルコンテンツの展示を通じて北斎・浮世絵の魅力を伝える。	なし	800 円 (大学生も同額)	500 円	無料	165,343	長野電鉄 小布施駅 徒歩 12 分
すみだ北斎館は、葛飾北斎とつながるアートやものづくりを通じて、まちでの新しい交流を生み出し、産業や観光への寄与する地域活性化の拠点となることを目指す施設である。	北斎とすみだの 関わりや北斎の 生涯を作品やタ ッチパネル式情 報端末で楽しみ ながら理解を深 めることができ る。	常設 400 円 大学生・専門学生・ 65 歳以上 300 円	常設 300 円	無料	300,000	JR 両国駅 徒歩 7 分
藤沢市藤澤浮世絵館は、市民の郷土への愛着を育み、市民の文化の向上に寄与することを目的として、東海道藤沢宿や江の島の浮世絵をはじめとした郷土資料の鑑賞ができる。	浮世絵の版画 刷りを体験でき るコーナーも設 置。	無料	無料	無料	32,920	JR辻堂駅 徒歩 5 分
江戸時代後期の浮世絵コレクションでは世界最大の美術館である日本浮世絵博物館は、長野県松本市の酒井家の浮世絵コレクションをもとに 1982 年に設立された。	なし	1000 円 (大学生 500 円)	500 円	500 円 (小学生 以下無料)	非公表	アルピコ交通 上高地線 大庭駅 徒歩 15 分
東京都江戸東京博物館は、江戸東京の歴史と文化をふりかえり、未来の都市と生活を考える場として平成 5 年(1993)3 月 28 日に開館。常設展は、徳川家康が江戸に入府してから約 400 年間を中心に、江戸東京の歴史と文化を実物資料や復元模型等を用いて紹介。	展示の最後尾 に「体感・体験 する」コーナーが ある。その他体 験展示有り。	常設展 600 円 大学・専門学校生 480 円 65 歳以上 300 円	300 円	都外在住 300 円	453,989	JR 両国駅 徒歩 3 分

## 「公益社団法人 川崎・砂子の里資料館」所有美術品の活用に向けた

### 基本合意

公益社団法人川崎・砂子の里資料館（以下「砂子の里社団」という。）と川崎市は、砂子の里社団が所有する浮世絵等を市内外の多くの方々に鑑賞していただけるよう、その活用について、次の事項を確認し、お互いに協力して、その実現に向けた取組を行います。

- 1 川崎市は、文化芸術の振興や地域の魅力向上に資するため、貴重な地域資源である砂子の里社団所有の浮世絵等の活用を中心とした展示施設の整備について検討を進めます。
- 2 展示施設の開設時期については、平成31（2019）年中を目指し、努力します。
- 3 砂子の里社団が所有する全ての浮世絵等の中から、概ね20年間、著名な作品や希少な作品を始めとした展示に必要な作品を、その都度無償で川崎市が借用し、川崎市は展示施設でこれを展示・活用します。
- 4 活用に関する詳細は、この基本合意の締結後に協議し、別途定めるものとします。

平成30（2018）年4月12日

公益社団法人川崎・砂子の里資料館  
代表理事 斎藤 文夫

川崎市長 福田 紀彦



浮世絵等の活用に向けた基本計画

平成30年7月

川崎市

(お問い合わせ先) 市民文化局市民文化振興室

電話：044-200-2294

FAX：044-200-3248